

『軍事史学』投稿規定

軍事史学会の会員は学会機関誌『軍事史学』へ投稿することができる。投稿原稿は未公開のものに限る。

執筆にあたって

- 一 『軍事史学』の使用言語は日本語である。
- 二 論文および研究ノートの原稿の分量は註も含めて二万字以内（四〇〇字詰原稿用紙五〇枚相当）とする。
- 三 本文に初出する人名は原則として「フルネーム」とし、漢字圏以外の人名にはカタカナのあとにアルファベットを表記すること。著名な歴史上の人物についてはこの限りでない。
- 四 一般に固有名詞について、またカタカナ表記の必要な外国人名、地名等についても、それぞれの原稿において表記を一貫させること。
- 五 地図や図表類を付す場合には一点六〇〇字相当と計算し、原稿の制限分量の中にも含む。必要最小限にすること。
- 六 ワードプロセッサーによる執筆の場合、原稿を横書きのプリントアウトで提出することとは差し支えないが、『軍事史学』は縦組みであるので、原稿中の年号、日付、数字等の数詞表記は縦組みを前提として執筆すること。
- 七 手書きによる執筆の場合は、縦書き原稿用紙を使用すること。
- 八 本誌で使用する大見出しに付す番号は、漢数字の一、二、・・・である。通例、論文の冒頭に「はじめに」、末尾に「結論」ないし「おわりに」といった大見出しが入るが、これらの表現は執筆者の裁量である。また中見出しが必要な際は、(一)、(二)・・・とする。「章」、「節」、「項」は使用しない。既刊の各号を参照すること。

註について

註の記述については正確、丁寧、簡潔を旨とし、一般的な学術的規則を遵守すること。あわせて一原稿において一貫性、整合性を維持することを本誌の原則とする。

- 一 註はすべて、本文の末尾に一括して掲げる形式をとる。
- 二 同一の引用文献が続く場合は、同右とする。
- 三 既出文献を、他の文献を引用した註をはさんで再度引用する場合は、原則として著者名の後に、副題を略した書名・論文名を記す。「前掲書」、「前掲論文」は用いない。
- 四 叢書の場合は、原典の表記に準拠する。
- 五 翻訳の場合は、訳者名は文献名の後に記す。
- 六 未刊行史料はカギ括弧で示し、所在を明らかにする。また当該史料を所蔵する文書館等が、論文への引用にあたって推奨している方式があれば、それに準拠する。
- 七 部内印刷資料は二重ではなく、通常のカギ括弧で示す。

《凡例》

- (1) 戸部良一『日本陸軍と中国 「支那通」にみる夢と蹉跎』(講談社、一九九九年)一〇二頁)、「ページ」ないし「ページ」の表記でもよい)。
- (2) 同右、一二三頁。
- (3) 河原地英武「朝鮮戦争とスターリン ソ連公開文書の検討」(『軍事史学』第三十五巻第一号、二〇〇〇年六月)二一 三四頁。
- (4) 防衛庁防衛研究所戦史室『戦史叢書72 中国方面海軍作戦1』(朝雲新聞社、一九七四年)二〇頁。
- (5) 角田順解説『現代史資料10 日中戦争3』(みすず書房、一九六三年)三〇頁。
- (6) 原田熊雄『西園寺公と政局』第六巻(岩波書店、一九五一年)一八五頁。
- (7) 伊藤正徳・富岡定俊・稲田正純監修『実録太平洋戦争 第七巻 開戦前夜と敗戦秘話』(中央公論社、一九六〇年)一〇五頁。
- (8) 麻田貞雄『日本海軍と対米政策および戦略』(細谷千博ほか編『日米関係史 2 陸海軍と経済官僚』東京大学出版会、一九七一年)一一七頁。
- (9) 戸部『日本陸軍と中国』一二四頁。
- (10) 河原地「朝鮮戦争とスターリン」二四頁。
- (11) ジョン・キーガン『戦争と人間の歴史』井上堯裕訳(刀水書房、二〇〇〇年)九七頁。

(12) 石井秋穂「海軍戦争検討会議記録に対する所見」(防衛研究所図書館所蔵、一九七七年四月)六頁。

(13) 建川大使発松岡外務大臣宛、第五九六号(「第二次欧州大戦関係一件・独蘇開戦関係」外務省外交史料館所蔵)。

外国語文献の註について

- 一 註における書誌情報の記載順は凡例の通りとする。書名・雑誌名・新聞名はイタリックとする(もしくは当該部分にアンダーラインを引く)。論文名はダブルクォーテーション・マークで括る。
- 二 同一文献の引用が続く場合は *Ibid.* (同書) を使用するが、その他のラテン語の略語である *op. cit.* (「前掲引用書中」の意) 等は使用しない。
- 三 既出文献の引用は、原則として、著者名の後に適当な長さに略した書名・論文名を記す。
- 四 同一文献を頻繁に使用する場合、あるいは文献名が長い場合には略称を使用してよい。
- 五 ひとつの註の中で、複数の外国語文献を掲げる場合には、セミコロンの (;) で区切る。また複数の外国語文献と日本語文献を同一の註の中で掲げる場合には、日本語文献と外国語文献とをそれぞれ分けて記す。
- 六 ドイツ語、ロシア語、朝鮮語等の言語で書かれた文献の註における表記については、『軍事史学』第三十六卷第三・四合併号の安藤公一会員、および第三十六卷第一号の鐸木昌之会員、河原地英武会員の論文を参照すること。さらに疑問のある場合には編集委員会に問い合わせること。
- 七 準拠すべき欧文文献の引用法の詳細については左を参看されたい。
Kate L. Turabian, *A Manual for Writers*, 6th edition (University of Chicago Press, 1996). なお本誌では、author-date システムは使用しないこととする。

《凡例》

(14) Michael Howard, *Lessons of History* (Oxford: Clarendon Press, 1991), pp. 23-34.

- (15) Alvin D. Coox, "Needless Fear: The Compromise of U. S. Plans to Invade Japan in 1945," *Journal of Military History* 64 (April 2000), pp. 411-38.
- (16) *Ibid.*, p. 420.
- (17) Howard, *Lessons of History*, p. 25.
- (18) Coox, "Needless Fear," p. 415.
- (19) U. S. Department of State, *Foreign Relations of the United States, 1950*, Volume VII: Korea (Washington, D.C.: U. S. Government Printing Office, 1976), pp. 295-97 (hereafter cited as *FRUS*).

投稿に際して

- 一 提出する原稿は完成原稿とする。
- 二 投稿規定を遵守していない原稿は編集委員会として受理しないこととする。
- 三 原稿中の数詞表記、見出し番号および註の体裁などについては、本誌の刊行物としての整序のため、編集委員会が修正を加えることがある。
- 四 著者校正は原則として一回までとする。校正は印刷上の誤り、不備の訂正のみにとどめる。校正段階において、著しい加筆や訂正があったと編集委員会が判断する場合には、その時点で掲載を中止する場合がある。
- 五 論文および研究ノートには必ず欧文タイトルをつける。
- 六 原稿は三部（コピー可）提出する。ワードプロセッサの原稿は読みやすいレイアウトとすること。（打ち出しの一例。A 4判用紙を用いる。行間を最低一行分はとる。フォントサイズの設定は一ポイントないし二ポイントとする。）文字以外の要素（図および表）は、本文中に含めず別紙に印刷し、本文原稿中に組み込み箇所を明示すること。
- 七 ワードプロセッサで執筆した場合には、打ち出した原稿とともに、その原稿のファイルを保存したフロッピー・ディスクを必ず同時に提出すること。
- 八 提出するフロッピー・ディスクの内容に関する注意
 - 編集業務の簡素化・効率化のため、提出するフロッピー・ディスクについては以下の要領で準備すること。
 - (一) ウィンドウズ系パソコンで原稿を作成した場合。同一のフロッピーにオリジナルの原稿ファイルに加えて、テキスト・ファイル形式で保存したファイルも

提出する。フロッピーのラベルに使用ソフト名とバージョンを記す。 についてはできるだけウインドウズ版の「マイクロソフト・ワード」ないし「一太郎」を使用されたい。

(二) マッキントッシュやワープロ専用機の場合には、オリジナルの原稿ファイルを保存したフロッピー・ディスクを準備し、そのラベルに使用した機種とソフト名を明記する。また別途MS-DOSでフォーマットしたフロッピーに、オリジナル原稿をテキスト・ファイル形式で保存したものを用意する。

(三) 固有名詞などJIS漢字コードに規定されている以外の漢字や、機種依存の特殊文字や記号については、原稿には別の記号(たとえば、やニなど)を仮に入力しておき、後で、打ち出した原稿に赤字で手書きすること。中国簡体字は可能な限り、JIS漢字コードに定められている漢字に置き換えること。

(四) のテキスト・ファイルについては註もテキストとして打ち出すこと。またテキスト・ファイルのみを提出する場合には、下線や欧文活字のイタリックはテキスト・ファイルには反映されないのので、その場合は打ち出した原稿に下線を引くこと。

(五) 表などをエクセル等のソフトで作成した場合は、印刷所で利用できる場合もあるので、原稿ファイルとは別ファイルとして、同一のフロッピー・ディスクに保存して提出すること。

九 投稿の際、住所、氏名(ふりがな)、所属と職位、電話番号・電子メールアドレス等連絡先を明記した別紙も添付する。

一〇 論文および研究ノートの採否と掲載号は編集委員会が決定する。提出された原稿とフロッピー・ディスク等は返却しない。

一一 原稿送付先 〒一六二 〇〇四一 東京都新宿区早稲田鶴巻町五四四 六

錦正社内 軍事史学会編集委員会

一二 掲載された論文と研究ノートについては原則として「抜き刷り」を三〇部無料送付し、それ以上は実費とする。

一三 論文・研究ノートの掲載は、一巻(一号から四号まで)につき一人二本までとする。

一四 『軍事史学』に掲載された論文等の著作権は軍事史学会に帰属する。著者が論文等を他に転載する場合には、学会に申し出て許可を得るものとする。

(平成十七年三月)